

## 7-9 山の植物

滋賀県は、琵琶湖を中心に平地、丘陵地、山地へと同心円状に標高が高くなり、植生も変化していきます。滋賀県には、亜高山や高山の山はありませんが、県の西・北・東部の山域は1000mを超え、堆積岩や花崗岩、石灰岩からなる山域もあり、また、県の南部は太平洋側気候区、北部は日本海側気候区に属し、変化に富んだ山の植物相が見られます。

### 1. はじめに

滋賀県では、丘陵地から標高700m（北部では500m前後）くらいまでは、シイ、カシを主体とした森が広がり、それより上部にはブナやミズナラを主体とした森が広がります。ただ、いずれの地域でも多くはスギやヒノキが植林され、本来の植生が人為的に破壊された後にできた代償植生などとなっています。山地の植物は、これらの植生域において、気候的条件、地形・地質的条件、さらに、人為的影響を反映しながら多様な植物相を形成しています。

### 2. ブナ林の植物

湖西地域から湖北地域、さらに湖東地域にかけてブナ林が見られます。多様な植物相を有する山域で、コハウチワカエデ、ナツツバキなどの樹木をはじめ、林床にはトクワカソウ、ミヤマカタバミ、サルメンエビネなどの草本植物も見られます。



写真7-9-1 トチノキ林（高島市）

### 3. 溪畔林の植物

ブナ帯の溪畔には、トチノキ、カツラ、オニグルミ、サワグルミなどが生育する林が見られます。原生的な林分は稀で比較的小規模ですが、長年選択的にトチノキを残した結果、トチノキ巨木林となっていることがあります。長い間安定した環境が維持された巨木には、ヒナチドリ、クラガリシダなどの貴重な着生植物も見られます。

### 4. 湖西・湖北の山地に多い多雪地特有の植物

滋賀県北部および北西部の地域は、冬の積雪により特徴づけられる、日本海型気候区に属しています。そのため、圧雪や雪の保温効果の影響により、多雪地特

有の植物が生育しています。エゾユズリハ、チャボガヤなど、太平洋側に対応する種を持つものや、タイムンガサ、オオバキスミレなど多雪地で分化した植物が生育します。



写真7-9-2 キンコウカ（赤坂山）

### 5. 北方系の植物

福井県から連なる山地は、滋賀県の北部で2つに分かれ、一方は伊吹山地に、また、一方は湖西の赤坂山へと続きます。この地域には、寒冷期に北から分布を広げた、北方系の植物が生育します。キンコウカは滋賀県が南限となり、ハクサンフウロ、キンバイソウは伊吹山まで分布し、マキノの赤坂山にはカライトソウやズダヤクシュなどが分布します。

### 6. 南部の山地に生育する植物

滋賀県南部は冬の降雪が少なく、太平洋型気候区に属しています。雪の多い日本海側地域に対応種を持つ、イヌガヤ、カヤ、ナガバノスミレサイシンとともに、ハククレッツリフネ、アオモジなどが生育します。また、花崗岩の貧栄養湿地では、ヘビノボラズ、トウカイコモウセンゴケなどが見られ、マルバノキ、コウヤミズキなどが分布します。



写真7-9-3 カツラカワアザミ（大津市）

### 7. 固有種（特産種）

特定の地域で発生・分化した植物を固有種または特産種と言います。ルリトラノオ、イブキレイジンソウ、イブキアザミなどは伊吹山だけに分布します。伊吹山地から鈴鹿山脈にはタキミチャルメルソウやコイブキアザミが生育し、湖西地域の谷沿いにはカツラカワアザミが分布しています。

### 8. 減少が心配される植物

滋賀県レッドデータブック2015年版には、640種の植物が掲載されています。その中の1/4を超える180種余りが山地性の植物です。自然環境の変化以外に、開発、土地の改変、盗掘、さらに、シカの食害など様々な影響があり、今後の変化に注意が必要です。

生物多様性保全活動支援センター 青木 繁